



日本文化としての「将棋」を世界に

先日、Washington Japanese Heritage Centerで将棋の授業をする機会がありました。

Washington Japanese Heritage Centerは、日本文化の総合的な継承を目指して作られた「学校」です。当該センターは、日本への帰国予定は当面ないけれども、日本語と日本文化を学びたい、学ばせたいというニーズに応えるため2004年に設立されました。以来発展を続け、ワシントンDC地域に住む200名以上の子供たち(幼稚園児から高校生まで)が10クラスに分かれて、日本語学習を中心に毎週土曜日の午前中に授業を受けています。

当該センターでは、日本に関する知識や文化、歴史はもちろんのこと、子供が日米両社会に通じる人間性、社会性、理解力、意識や自覚などを養うことができるよう学習環境が整えられています。生徒の中心となっているのは、日本語による指示が理解でき、自分でも日本語を使いこなせるようになりたいという意志のあるアメリカで生まれた子供です。日本にいずれ帰国する子供たちに日本式教育を施すことを前提にして運営されている、いわゆる「補習校」とは異なり、学習内容は多

岐にわたります。今回は、将棋を含めていただくことができました。

今回教えたクラスは、30名近い高校生が集まるクラスで、そこで約1時間の「将棋紹介」授業を行いました。

将棋に興味がある子・ない子、将棋ができるようになる子・ならなさそうな子、の混合したグループを相手に、1時間で将棋というゲームの内容を伝えるというのがミッションでした。すでに将棋ができる子が数名おり、驚きました。将棋の起源は、チェスと同じくインドにあります。インドから西へ伝播してできたのがチェス、東へ伝播してできたのが将棋で、互いに似た部分がたくさんありますので、チェスと将棋の両方ができる子もいました。また日本語を勉強していることから将棋の駒の漢字を読むことのできる子が普通でした。ワシントンDCにて、そのような子供がたくさんいることを知ったのが新鮮でした。

将棋を全く知らない子、興味がない子も含まれるグループを相手に行う1時間の授業を



どのような形態にしたらよいのかと考え、マグネット式の大盤を2面、ホワイトボードに背中合わせに貼り、2チームに分かれて将棋をする、というスタイルをとりました。将棋をやったことがある数人の生徒にリードさせる形で対局を進めました。

この写真で大盤を覗んでいる2名の女子が、実際に駒を動かしながらディスカッションをし共同でプレイしているのが微笑ましい光景でした。この2名は、すでに将棋が楽しめる状態になっている子ですね！

将棋は理路整然と状況を把握し、決断していく面白さを大いに持ったゲームです。私が独断と偏見に基づき主張している将棋の「7つの教育効果」は以下の通りです。

- (1) 客観的（フェア）な状況判断をする習慣がつく
- (2) スクラップ&ビルド思考ができるようになる（やり直せる自信がつく）
- (3) 他人の意図に注意しながら行動できるようになる（自分勝手な理屈を振り回すことのおろかさを知る）
- (4) 正解不明の不安な状況での決断ができるようになる（失敗を恐れず前に進む精神力がつく）
- (5) 最後まであきらめない（最後まで楽観しない）ことの大切さを知る
- (6) 自己責任感を醸成できる（他人の所為にしない独立自尊の精神が身につく）
- (7) 論理を構造的に把握できるようになる（言葉による論理把握を超えた思考ができるようになる）

いずれも知識偏重型になっている普通の学校教育では学べにくいものばかりで、将棋を離れた社会生活においても役立つ能力です。

私は現在ワシントンDCに住み、12歳の女子と、9歳の双子男子とを育てています。彼らにも将棋を教えているのですが、それは上のような効果を期待してのことです。もちろ

ん、日系アメリカ人として生まれた彼らに、日本の文化を承継して欲しいという思いもあります。

また私は、ワシントンDCで弁理士として働く傍ら、日本将棋連盟ワシントンDC支部の支部長もやらせてもらっています。次の具体的なイベント予定として、ワシントンDCで4月に開催される「桜まつり」にブースを出展し、ワシントンDC地区の皆さんに広く将棋を紹介する機会を作ります。

コロナ騒動の前に行っていた月1回の「将棋パーティ」もそろそろ再開していければと思っています。将棋パーティは、将棋対局と夕食会とを合わせたようなイベントで、将棋をしない人もかなり参加していただいています。コロナの影響が徐々に少なくなっていく中、今後は、オンラインだけでなく、直接の将棋対局の場も増やしていければと思っています。

また、インターネットの時代なので、その環境を活用して、国境にしばられない地球規模の将棋普及活動を展開していければとの思いで、毎月1回、「将棋で世界を征服しましょう」とタイトルが付けられたZoomミーティングに参加しています。そこでは、日本はもちろんのこと、南米のペルーやブラジルからも参加があり、広く太平洋を挟み、北米大陸・南米大陸を跨いだ活動が展開されています。

著者紹介



宮川 良夫(みやがわ よしお)

United GIPs代表、弁理士・米国パテントエージェント

1956年 京都生まれ。1978年 同志社大学工学部卒業。1986年 弁理士登録。

1997年 米国パテントエージェント登録。弁理士法人新樹グローバル・アイ

ピーを初めとして、世界8カ国（地域）にて10カ所の弁理士事務所設立、経営に携わる。1995年以来ワシントンDCに滞在し、現職場はUnited IP Counselors, LLC。趣味は、Rock Creek Parkを有効活用した犬の散歩と子（孫？）育て。好きな言葉は「天地不仁」。